



Little Diamonds

YOUTH

高円宮杯第20回全日本ユース(U-18)選手権 浦和レッズユース、白星発進 FC東京に逆転勝ち!

高円宮杯第20回全日本ユース(U-18)サッカー選手権が9月6日(日)から始まり、浦和レッズユースは1次ラウンド初戦で、FC東京U-18と対戦。先制点を奪われたが、2-1で逆転勝ちした。1次ラウンドは4チームによるリーグ戦で、各グループの上位2チーム(12チーム)と、各グループ3位チームのうち成績上位4チームが決勝トーナメントに進む。レッズユースはこの後、13日(日)に静岡学園高校と、19日(土)に米子北高校と対戦する。

先制されるも粘って逆転勝ち プリンスリーグの雪辱果たす

立ち上がりはレッズがDFラインからしっかりと組み立て、やや支配して試合を進めたが、徐々にF東京が攻勢を強め、一進一退の展開となった。縦へのロングボールやサイドチェンジでの展開でミスが出て、なかなかチャンスを作ることができないレッズだったが、23分、相手エリア前やや右で高木からのパスを受けた岡田が縦に仕掛けてシュート。惜しくもバーを叩いた。

後半10分、F東京に先制を許して相手を勢いに乗せてしまい、その後、攻め手が見いだせなかったが、31分、右サイドバックの岡本がファーサイドに上げた質の高いクロスに磯部が飛び込み、頭で合わせて同点とした。さらに、互いに疲れも見え、カウンターの打ち合いになって迎えたロスタイム、レッズは左サイドでドリブルを仕掛けた矢島倫からのグラウンダーの折り返しを、途中出場の鈴木が押し込み、逆転。大事な初戦を逆転勝利で飾った。

レッズユースは今季のプリンスリーグ関東7位の成績で本大会に出場。そのプリンスリーグでは7月の対戦でF東京U-18に1-6の大敗を喫しており、雪辱を果たした形となった。



ケガから復帰した畑本は4か月ぶりの出場(96/F東京U-18戦)



ボランチに入った広瀬(96/F東京U-18戦)



後半31分、磯部のヘッドで同点に追いつく(96/F東京U-18戦)



左サイドバックを務めた若井(96/F東京U-18戦)



後半ロスタイム、決勝ゴールを挙げた鈴木が全身で喜びを表す。左から磯部、岡田、右は矢島慎(96/F東京U-18戦)

高円宮杯第20回全日本ユース(U-18)選手権 1次ラウンド第1日 グループF	
2009.9.6(日)13:20 / NACK5スタジアム大宮	
浦和レッズユース	2 前0 後2
FC東京U-18	1 前0 後1
GK	中村 隼
DF	岡本拓也 大里康朗 畑本時央 若井祥吾
MF	広瀬健太 石沢哲也(矢島慎也 / 84分) 岡田昌巳(森田健介 / 89分)
FW	磯部裕基 高木 凛(鈴木大輝 / 71分) 矢島倫太郎
レッズ得点	磯部(76分)、鈴木(89分)
* 45分ハーフ	

試合日程(浦和レッズユース)

- 1次ラウンド: 13日(日) vs 静岡学園高校(13:20 / 駒場スタジアム)
- 19日(土) vs 米子北高校(13:20 / 埼玉スタジアム第2G)
- 決勝トーナメント・ラウンド16: 21日(月祝) or 23日(水祝)
- 同・準々決勝: 10月 3日(土) or 4日(日)
- 同・準決勝: 10月10日(土)
- 同・決勝: 10月12日(月祝)

レッズユースがスペイン遠征、持ち帰ったものは何か



浦和レッズユースは、8月24日(月)から9月1日(火)までスペイン遠征を行った。現地ではタラゴナで開催された「ホセ・ラモン・セガラ杯」に出場して2試合を行ったほか親善マッチ2試合を戦った。

ホセ・ラモン・セガラ杯

8.29 準決勝	浦和レッズ	0	(⁰⁻⁰ ₀₋₀)	0	アトレティコ・マドリッド
(PK 2-4)					
8.30 三位決定戦	浦和レッズ	4	(³⁻⁰ ₁₋₀)	0	CDアルカナル
得点者 矢島慎也、礒部裕基、畑本時央、高木凜					
今大会最少失点GKとして中村隼が表彰された。					

親善マッチ

8.26	浦和レッズ	2	(⁰⁻⁰ ₂₋₃)	3	ヒムナスティック・タラゴナ
得点者 礒部裕基、小峰郁海					
8.28	浦和レッズ	5	(⁴⁻⁰ ₁₋₀)	0	ビジャレアル
得点者 岡田昌巳2、矢島慎也、礒部裕基、矢島倫太郎					

ホセ・ラモン・セガラ杯の開会式。このエンブレムは主催者が手描きで作ってくれた



大会名となっているホセ・ラモン・セガラ氏ゆかりの教会に礼拝

教会の前で大会参加チームと合同の集合写真



大会初戦のアトレティコ・マドリッド戦に臨む



CDアルカナル戦に臨むイレブン

チームを代表して記念品を受け取る石沢副キャプテン



ホテルの近くの浜辺で散歩と体操



海外での経験を自分の将来に生かそう

技術だけでないサッカーの本質を学べた

ユース監督 堀 孝史

この遠征の目的の1つは、海外のチームと対戦することで、サッカーの本質的な部分をもっと身につけて欲しいということがありました。技術や戦術に関しては、レッズの選手たちの方が上だと思います。しかし、向こうの選手たちは技術はともかく、それぞれが自信を持って思い切りやるということや、1対1で負けないこと、負けているときにもっと頑張るといったことなどがはっきりしていました。

今年のうちのチームは、考えて動くということは必要なんですけど考えすぎるところがあるというか、考えた末に悩んでしまうとか、アクションが伴わない部分があるように思います。サッカーはシンプルなもの、やればいいんだ、という部分があるんですけど、それが向こうのチームと対戦して相手と同じように頑張ることで、これまでとは違う部分を発揮できるようになればと思っています。成果が出るのはこれからですが。

クラブユース選手権に出場できなかったことで、それぞれの選手が悔しさを忘れていないと思いますし、その思いを高円宮杯で出して欲しいと思います。最後の大会になる選手もいると思いますし、この遠征で得たものもそうですが、これまでやってきたことで何が必要で何が出来るかというのを、それぞれの選手が発揮できれば良いと思います。

海外遠征で当たりの強さに慣れ、結束が強くなる

石沢哲也(副キャプテン)

スペインには毎年行かせてもらっていますが、海外でやることで、自分がいまだにどれくらい出来るか確かめられるというか、自分の位置を知ることが出来る遠征です。当たりの激しさがだいぶ違いますし、スペイン遠征のあとに日本でやると少しはプレッシャーが楽になった感じがします。

遠征ですらチームのみならず話し合う機会が増えますし、ぶだんあまり話さない選手ともたくさん喋れますから、結束が強くなる良い機会です。食事は同じものが多くて厳しかったですが(笑) みんな頑張って食べていました。大会ではアトレティコ・マドリッドにPK負けて、バレンシアとやれなかったのは少し心残りです。

クラブユースに出られなかったことは本当に残念でした。高円宮杯は去年優勝していますが、そういうプレッシャーに負けないで、自分たちのサッカーをやりたいと思います。

第24回日本クラブユース選手権(U-15) 浦和レッズジュニアユース、 ラウンド16(1回戦)で惜敗

8月15日(土)からJヴィレッジで行われた第24回日本クラブユース選手権(U-15)に出場した浦和レッズジュニアユースは、グループリーグを負けなしの1位で突破したが、19日(水)のラウンド16(決勝トーナメント1回戦)で名古屋グランパスU15に敗れ、ベスト8進出はならなかった。

グループリーグでCグループに入ったレッズジュニアユースは、15日の初戦でジェフ市原・千葉U-15習志野と対戦。前半から相手を攻め立てたが、初戦の緊張からか持ち味がなかなか発揮できず、0-0で引き分けた。続く第2戦では、静岡県のACNジュビロ沼津と対戦。小峯洋介がハットトリックの活躍で3-0と快勝した。福岡県の小倉南FCとの第3戦は、佐藤大介の先制点でリズムをつかむと前半のうちに3得点。後半、2点を返されたがレッズも追加点を挙げ、5-2で勝ちを収めた。

Cグループを1位で通過したレッズは19日、Dグループ2位の名古屋グランパスU15と対戦。立ち上がりから良いペースで試合を進め、16分にCKから新井純平がヘディングで先制。その後追いつかれ、1-1で折り返した後半10分、カドコダイ・アシカンのヘディングで勝ち越したが、21分にまたも同点とされる。さらに39分、相手の攻撃を一度はクリアしたが、こぼれ球を詰められたシュートが味方の足に当たってコースが変わり失点。これが決勝点となって涙をのんだ。

なお大会優秀選手として、西澤秀平、新井純平、中村駿介が選ばれた。3人は9月13日(日)に名古屋市瑞穂球技場で行われる「メニコンカップ2009日本クラブユースサッカー東西対抗戦(U-15)」にイースト(東)チームとして出場する。



前半16分、先制点を挙げた新井(5)をチームメートが迎える(819/名古屋戦)

第24回日本クラブユースサッカー選手権 ラウンド16	
2009.8.19(水) 11:00 / Jヴィレッジ	
浦和レッズ ジュニアユース	名古屋グランパス U15
2	3
前1 後1	前1 後2
GK	細田龍太
DF	新井純平 齋藤一穂 西澤秀平 佐藤大介
MF	西袋裕太 繁田秀斗 金野僚太 小峯洋介(副島暢人/70分)
FW	カドコダイ・アシカン 中村駿介(大野耀平/80分)
レッズ得点	新井(16分)、カドコダイ(50分)
*40分ハーフ	



後半10分、カドコダイがヘディングシュートを決め、2-1と勝ち越す(819/名古屋戦)

金野は頭を負傷しながら最後まで戦った(819/名古屋戦)



最終ラインからゲームを組み立てる西澤(819/名古屋戦)



リードされた終了間際にも落ち着いて守る斉藤(819/名古屋戦)



前半29分、中村がシュートを放つ(819/名古屋戦)



後半ロスタイム、CKから西袋がヘディングシュートを放つ(819/名古屋戦)



あと少しの部分で自分の力を発揮できるように ～ 第24回日本クラブユース選手権 (U-15) を振り返って

ジュニアユース監督 名取 篤

ラウンド16の名古屋戦だけを振り返れば非常にもったいない試合でした。こちらが先制する前にもチャンスを多く作っていましたし、先制してからも2点目を取るチャンスがありました。2-0にしてあげばこちらのリズムになると思いますが、取れないうちにミスも絡んで同点にされてしまいました。そこで少し気落ちしたところもありましたが、ハーフタイムに点を取りに行く姿勢を取り戻して後半勝ち越せたのは良かったと思います。しかしチャンスもシュート数もこちらの方が多かったのですが、相手にはその少ないチャンスを決められてしまいました。リードしたところで、さらに追加点を挙げる強さが今季の課題だと思います。



大会を通じては、自分たちの良さである攻撃に関して全員で攻める形はできてきたと思いますし、守備ではボールを取られたら奪い返すという基本的な部分を見直せました。また苦しい時間帯も耐えられるようになったことが挙げられます。しかし、あと少し、という部分が大きいと思います。どんな状況でも自分の力を発揮できるか、ということについてはこれからもやっていかないとはいけません。

負けたという悔しさは決して忘れてはいけないし、その借りを今年のうちに返すには高円宮杯に出場し、出るだけではなくさらに上を目指そうと選手たちに言っています。この夏の成果はこれからの関東リーグや高円宮杯で出てくると思います。



小峯洋介 (8/16 / 沼津戦)

大野耀平 (8/15 / 習志野戦)



今季公式戦2敗目。負けた悔しさを忘れてはいけない (8/19 / 名古屋戦)

第24回日本クラブユースサッカー選手権 Cグループ第1日	
2009.8.15(土)15:00 / Jヴィレッジ	
浦和レッズ ジュニアユース	0 前0 後0 VS 前0 後0 ジェフ市原・千葉 U-15 習志野
GK	細田龍太
DF	金野僚太 齋藤一穂 西澤秀平 新井純平
MF	西袋裕太 繁田秀斗 佐藤大介 (大野耀平 / 68分) 小峯洋介 (副島暢人 / 54分)
FW	カドコダイ・アシカン 中村駿介
* 35分ハーフ	

第24回日本クラブユースサッカー選手権 Cグループ第2日	
2009.8.16(日)13:00 / Jヴィレッジ	
浦和レッズ ジュニアユース	3 前0 後3 VS 前0 後0 ACNジュビロ 沼津
GK	細田龍太
DF	新井純平 齋藤一穂 西澤秀平 佐藤大介
MF	西袋裕太 繁田秀斗 金野僚太 小峯洋介
FW	カドコダイ・アシカン 中村駿介 (大野耀平 / 70分)
レッズ得点	小峯3 (57分、61分、68分)
* 時間の表記は主催者の計測方式による	

第24回日本クラブユースサッカー選手権 Cグループ第3日	
2009.8.17(月)10:30 / Jヴィレッジ	
浦和レッズ ジュニアユース	5 前3 後2 VS 前0 後2 小倉南FC
GK	細田龍太 (吉野雅大 / 51分)
DF	新井純平 (副島暢人 / 46分) 齋藤一穂 西澤秀平 (相馬 慎 / 63分) 佐藤大介
MF	西袋裕太 繁田秀斗 金野僚太 小峯洋介
FW	カドコダイ・アシカン (村上健太 / 66分) 中村駿介 (大野耀平 / 51分)
レッズ得点	佐藤 (12分) 繁田2 (13分、33分) 金野 (40分) カドコダイ (44分)

U-14 チームが恒例のドイツ遠征

浦和レッズジュニアユースのU-14チームは19人が、8月24日(月)～9月1日(火)、ドイツに遠征。クラブとパートナーシップを結び、FCバイエルンミュンヘン(以下、FCB)の練習場を拠点に、現地でのミニトーナメントに出場した。

5回目となるこのドイツ遠征は、海外の文化に触れ、ふだんとは違う環境の中でも自分自身で何でもできるような力を身につけてほしいという、生活面での成長を第一の目的としている。

選手たちは、実質7日間の滞在の中で、ミュンヘンのノイシュバンシュタイン城を観光したり、FCBのホームスタジアム、アリアンツ・アレナを見学したりしながら、大会では優勝。またFCBのU-14チームとの練習試合で手ごたえをつかんだようだ。



FCBのU-14チームと合同の集合写真



アリアンツ・アレナを見学中の選手たち



移動にはFCBのバスを用意してくれた

見えないプラスがあったはず U-14担当コーチ 池田伸康

海外に行くのは初めての子が多いですから、僕が言った「飛行機は土足厳禁だぞ」という冗談で、靴を脱いで搭乗する子もいました(笑)。生活面でどこまで得るものがあったかは人によって違うと思いますが、目には見えない変化でも何かプラスがあったと思います。大会では、ケガ人がいたり、風邪で出られない選手がいたりしてやりくりが大変でした。GKの関口亮助にFWをやってもらったら大会得点王になってしまったり、大きな身体の相手に戦えたり、ふだんあまり試合に出ない選手も含めて何とか優勝できました。またFCBの同年代のチームと練習試合をできたのも大きな成果だと思います。